



梅花新聞【香里】 第40号

題字 管長 江川辰三 禅師
発行者 益田 隆文
発行所 曹洞宗宗務庁
企画編集 伝道部詠道課

梅花の法輪

曹洞宗 管長
大本山總持寺貫首

えがわしんざん
江川辰三

平成三十年（二〇一八）の新春をお祝い申し上げ、謹んで梅花講議員の皆様のご多幸をお祈りいたします。

旧年中の宗門各方面へのご支援に対し、心より感謝の意を表するとともに、本年も変わらぬお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

昭和二十六年、戦後の日本社会復興の中で誕生した梅花流は、現在に至るまで、宗門の布教化の重要な役割を担い、あたかも、梅花の麗しい香りが十方に広がるかのように、数限りない多くの人々に対して、深い感動と明るい希望をもたらしてまいりました。

そして今何よりも冀うのは、この梅花の法輪の力が、いまだ復興途上にある東日本大震災や各地被災地の方々、あるいは苦境や不安の中に

お誓い

- ・私達は梅花流詠歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、明るい世の中をつくります。

ある方々に伝わっていくことであります。それによって、共に生きる喜びを分かち合い、皆で歩みを支え合う勝縁が実り熟することを、衷心より切望いたします。

さて、梅花流全国奉詠大会の歴史を振り返れば、第一回大会は、昭和二十七年十一月に大本山總持寺において管修されました。それから早六十六年の歳月が流れ、本年の全国大会は、来る五月二十三日・二十四日に、静岡市「このはなアリーナ」において盛大に開催されます。多くの方々に会場にお集まりいただくことを念じております。

皆様が余念をはさまず至心にお唱えすることが、知らぬ間に会場の方々に大きな感動を与え、そして更にその法悦が、お唱えする方に返照して会場全体がより深い安心に包まれていきます。自他一如の安楽の境涯を、ぜひ証得していただきたいと念願するものです。

年頭にあたり、皆様のご健勝と更なるご精進を衷心より祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

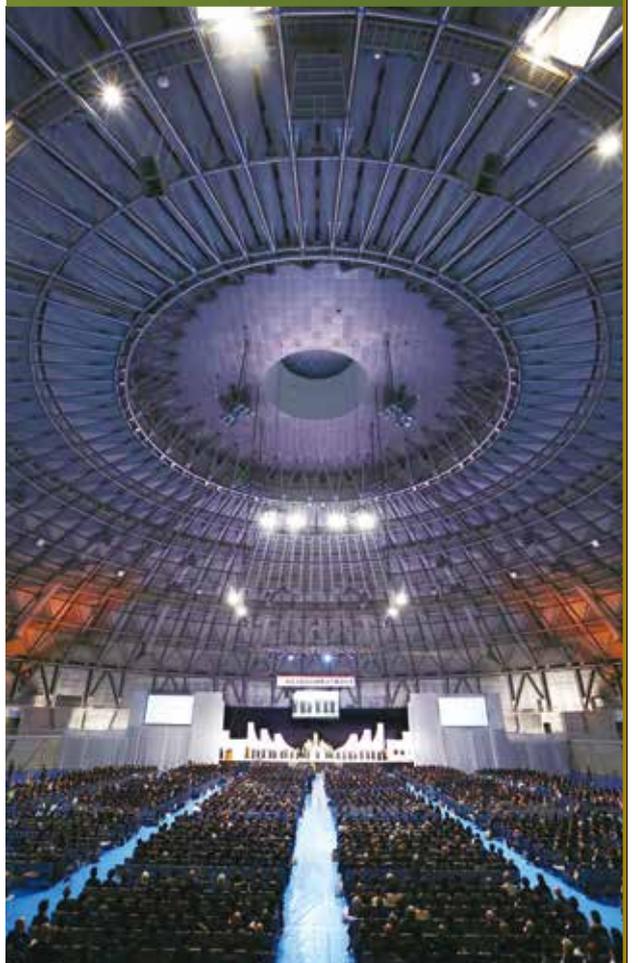


梅花流創立六十五周年 記念奉讃大会開催報告

報恩献詠・大本山永平寺

式典・サンドーム福井

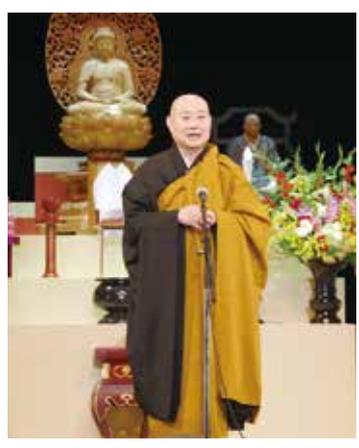
平成二十九年五月二十三日
～二十六日
式典・サンドーム福井
平成二十九年五月二十四日
～二十五日



式典

第一部 開会式

入場・オープニング



朝早くから、福井県内を中心とするスタッフの方々が参加者をお

迎えました。今大会は、ブラジルやアメリカなど海外の講員も参加されました。

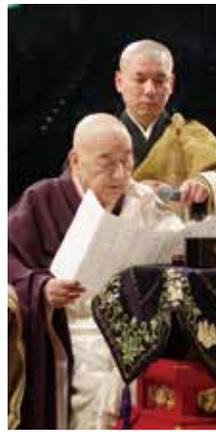
定刻に、大梵鐘が会場内に鳴り響き、太鼓演奏によるオープニングで大会が幕を開けました。

その後、副大会長の渡部卓史伝道部長が大会の開会を宣言。引き続き、参加者による献灯・献花・お誓いを行いました。



記念法要

「三宝御和讃」が奉詠される中、大会名誉総裁の大本山總持寺貫首江川辰三禪師さま、大会総裁の大本山永平寺貫首福山諦法禪師さまが入堂されました。福山諦法禪師さま御導師のもと、大会の記念法要が営まれ、「般若心経」の後、「大聖釈迦牟尼如来讚仰御詠歌(高嶺)」をお唱えいたしました。



講員物故者並びに阪神・淡路大震災二十三回忌、東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌法要

次に、江川辰三禪師さま御導師のもと「講員物故者並びに阪神・淡路大震災二十三回忌、東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌法要」が執り行われ、お亡くなりになられた講員への追善と、自然災害の犠牲者による物故者の冥福を祈りました。





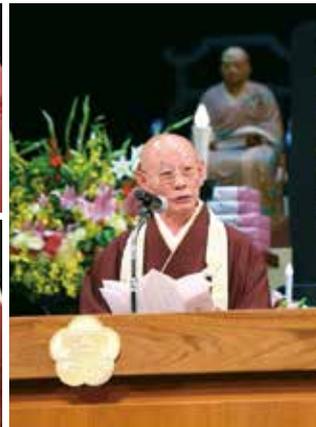
相見の拝

両禅師さま、両大本山副貫首さまと参加者との相見の拝が行われました。大会総裁の福山諦法禅師さまからは「梅花流の名にもある梅は寒苦に耐え、花を咲かせます。人生もこれに似て、苦難に遭っても精進を怠らず安心の境地を目指し、心に安らぎを得るのです。まさに仏道修行であります」とのお言葉を賜りました。



第二部 記念式典

大会長の釜田隆文宗務総長から式辞が述べられた後、講員になられて二十年以上の方々に贈られる「奨励賞」の代表の方々を表彰いたしました。



【表彰1日目】

【表彰2日目】

休憩時間には河村松雄総務部長から曹洞宗義援金協力への呼びかけがあり、参加者からたくさん募金を頂戴いたしました。



第三部 清興

シンガーソングライターの南こうせつさんによる清興は「まごころに生きる」から始まり、かぐや姫時代の「神田川」、「妹」など名曲を披露されました。また、お寺のご子息として生まれた、南さんご自身の思い出なども楽しくお話しされました。新曲「澄みわたる空」が発表されると、会場は大きな歓声につつまれました。



第四部 閉会式

「坐禅御詠歌(浄心)」が独詠されるなか、会場の全員で心静かに椅子坐禅を行いました。続いて、渡部卓史伝道部長の閉会の言葉で「静岡県」が発表されました。挨拶の最後にもご縁の輪を広げ、新たな仲間を迎えて静岡に足を運んでいただき「と述べました。最後に「まごころに生きる」を合唱し、式典は盛会裏に終了いたしました。





唐門を通る参加者

報恩 献詠

五月二十三日から二十六日の四日間にかけて、一万人以上の大会参加者が永平寺に参拝し、報恩献詠をしました。

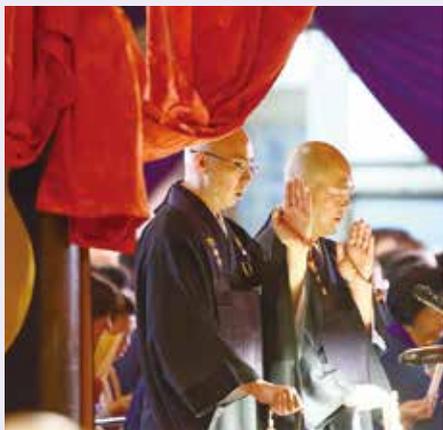
参加者は、龍門前までバスで行き、徒歩にて法堂まで向かいました。途中、大本山永平寺の特別なご配慮により、新たに禅師さまが晋山する時などしか開門されない、唐門を通ることができました。修行僧が上山・乞暇する際のみ

通ることが出来る山門では、茶所が設けられ、修行僧から直接、参加者へお茶がふるまわれました。大変ありがたいおもてなしに、参加者は感激していました。

その後、梅花流特派師範先導の下、法堂まで向かいました。法堂では椅子が用意され、作法に従って「大本山永平寺第一番御詠歌(溪声)」をお唱えし、大本山永平寺、道元禅師さまに報恩の献詠を行いました。お唱え出来ることに感動し、涙をながされる参加者もいました。

献詠後、道元禅師さまの御真廟である承陽殿にお参りをした後、僧堂、吉祥閣を経由して、受処を通りました。途中、瓦志納を行う参加者も多く見られました。

外にでると、大本山永平寺



七十三世熊沢泰禅師さま揮毫の「溪声」の歌碑があり、参加者の方々は手を合わせていました。バスの待機場まで、門前を徒歩

で散策し、休憩やお土産の買い物しながらバスの待機場まで向かいました。途中、永平寺町のキャラクターの「えい坊くん」、ばいかくんと写真撮影ができた大変喜ばれました。

本山役寮、修行僧、梅花流特派師範、梅花流研修員、門前の方々など様々な関係者にお力添えをいただき、大きな



事故もなく、大本山永平寺、道元禅師さまに報恩献詠を行うことができました。



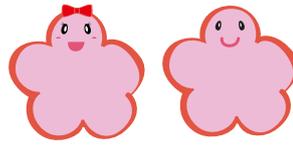
椅子を使ったお唱えについて

宗務庁主催講習会や検定会では、椅子や机を使って、お唱えする方が多く見受けられます。

仏具店等で頒布している御詠歌用の椅子・机もございますが、ホテルや公民館などの公共施設といった、寺院以外で開催される講習会や大会では、正座（坐行）でお唱えを行うことは難しく、一般的な会議などで使用される椅子と机を使用することが多いのが現状だと思います。

伝道部詠道課では、専門委員会等において、「椅子・机を使用した奉詠について（参考）」を作成いたしました。ご参考にさせていただきます。

また、大会などで椅子・机を使用する際は、実際に使用する椅子・机の高さや大きさに合わせ、臨機応変に対応ください。



① 机のみ使用し座位での奉詠



② 椅子に座って低い机を使用しての奉詠



③ 椅子に座って高い机を使用しての奉詠



④ 立って高い机を使用しての奉詠



『椅子・机を使用した奉詠について（参考）』

(イ) 椅子や机の高さや台面の広さ等は自由である。よって、次のような状況が考えられる。

- ① 机のみ使用し座位での奉詠
- ② 椅子に座って低い机を使用しての奉詠
- ③ 椅子に座って高い机を使用しての奉詠
- ④ 立って高い机を使用しての奉詠

坐行に準じ、それぞれが工夫して使用することを推奨する。

参考 椅子と机の高さが同等程度であると、坐行での作法がしやすい。

(ロ) 法具を置く（捧持する）のは、座る（立つ）前でも後でもよい。

法具は、机の手前端から十センチほど前方に置く。

(ハ) 拝は、合掌した前腕が、机の手前端に軽く触れる程度に上体を倒す。

〔イ〕 ①・③の場合

(ニ) 打鉦において、撞木を直立に振り上げたとき、垂直に垂れたとき、及び定位についたとき、撞木と手の甲との角度は、坐行とは異なってもよい。

(ホ) 『三宝』『歓喜』『不滅』『影向』『道環』等において、ほぼ二拍間で下げた鈴は、袱紗の定位に安ずる。

可睡斎梅花授戒

平成二十九年六月十六日～二十日にかけて可睡斎(静岡県袋井市)において、「可睡斎五十一世高階瓏仙禅師五十回忌 梅花流詠讃歌をとりいれた報恩大授戒会」が行われました。



県内外から多くの戒弟が参加しました。授戒会では、詠讃歌のみが詠讃歌をお唱えするのが一般的ですが、この授戒会では、戒弟全員でお唱えをしました。会期中は毎日詠讃歌の講習の時間が設けられ、法要の際などにお唱えする曲の講習も行われました。

禅をきく会

平成二十九年十月三日にメルパルクホール(東京都港区)において、「禅をきく会」が開催され、約五百名が来場しました。



第一部では「禅話と東日本大震災七回忌追善奉詠」と題して法話と奉詠による追善供養が行われ、第二部では梅花流の師範による「禅の聲ーお釈迦さまのご生涯」とのテーマのもと、お釈迦様の生涯を梅花流詠讃歌でたどるステージが披露されました。ステージ後には、新曲「澄みわたる空」を師範と来場者全員で合唱いたしました。

ブッダスperl〜仏教伝道協会〜

平成二十九年十一月八日に紀尾井ホール(東京都千代田区)において、『第十八回仏教音楽祭「平和×御詠歌 梅花讃嘆」ブッダスperl Buddha pearl Peaceful Light〜平和の光』(主催:公益財団法人仏教伝道協会)が開催されました。



梅花流師範八名がオーケストラに合わせ、伝統的な梅花流詠讃歌を披露されました。また、平和讃御詠歌と称した新しい御詠歌「空華」(作詞:夢枕獏、作曲:松下功)が発表され、仏教音楽を通して世界平和を祈りました。

スマイルアゲイン梅花のついで

「歌声で 捧げよう祈り 届けようまごころ」をテーマに、梅花流詠讃歌を通じて全国で発生した震災被災地の復興を願い、各被災地に歌声とまごころを届けることを目的とした集いです。



各地の有志の梅花流師範が中心となり、詠範・講員の方々をひろく招いて開催されています。スマイルアゲインでは、詠讃歌の講習だけではなく、追悼法要や、ギターを伴奏にお唱えをいたします。集められた参加費は、昼食代等を差し引き、曹洞宗義援金に入られます。

スマートフォン梅花流アプリ

スマートフォン梅花流アプリ、「梅花流詠讃歌鍵盤アプリ」を作成いたしました。

お手持ちのスマートフォンやタブレット端末で、いつでもどこでも手軽に練習ができます。



ダウンロード(インストール)方法

android 版

playストア→「梅花流詠讃歌鍵盤アプリ」で検索

ios 版 (iPhone, iPad 等)

app store →「梅花流詠讃歌鍵盤アプリ」で検索

サンフランシスコの梅花流について 〜アメリカからのお便り〜

一九三四年に開創された桑港寺で、日系移民一世の檀信徒により御詠歌が始まりました。

お唱えしていると、法灯をお守りくださった一世の努力をひしひしと感じ、感謝の思いが沸き上がります。どの曲も、美しく表現された仏さまのみ教えの一言一言が温かく伝わり、尊い気持ちでお稽古をすることができ、また、楽しい時間となっています。



アメリカ合衆国
サンフランシスコ市
日米山桑港寺 川尻ミツ子

お詫び・訂正

左記発行物に誤りがありました。謹んでお詫びし、訂正いたします。

梅花新聞「香里」第三十九号

五頁

ポルト・アレグレの梅花流について「ブラジルからのお便り」

下段十六行目

誤「螢山禅師」

正「瑩山禅師」

梅花流創立六十五周年記念奉讃大会
大会記念品洋楽譜冊子

「追慕〜御詠歌とともに〜」

七頁

無常御和讃

歌詞四番

誤「永却」

正「永劫」

二十頁

新亡精霊供養御和讃楽譜

上から二段 歌詞四番

誤「しなえて」

正「となえて」

下段

誤「カッコは 3 番時」

正「カッコは 4 番時」

追慕

ご詠歌とともに

詠道課便り

平成三十年度宗務庁主催講習会

平成三十年度の宗務庁主催の講習会は左記のように開催予定です。一部、変更になる場合がございます。申込方法、受講料等詳細は曹洞宗報四月号をご覧ください。

尚、曹洞宗報四月号発行以前の詠道課、会場へのお問合せはご遠慮ください。

※五月八日は、検定についての講習を予定しております。

	期 日	会 場	対 象
※	5 月 8 日	曹洞宗宗務庁	検定委員・検定受験者
第 1 回	6 月 19 日～21 日	愛知県名古屋市 正法寺 (愛知専門尼僧堂)	師範・詠範
第 2 回	7 月 3 日	曹洞宗宗務庁	師範
第 3 回	7 月 4 日	曹洞宗宗務庁	詠範
第 4 回	7 月 5 日	曹洞宗宗務庁	詠範
第 5 回	7 月 11 日～12 日	福井県 大本山永平寺	檀信徒
第 6 回	8 月 29 日～31 日	北海道札幌市 中央寺	師範・詠範
第 7 回	10 月 2 日	曹洞宗宗務庁	師範
第 8 回	10 月 3 日	曹洞宗宗務庁	詠範
第 9 回	10 月 4 日	曹洞宗宗務庁	詠範
第 10 回	11 月 7 日～9 日	宮城県仙台市 林香院	師範・詠範
第 11 回	11 月 19 日～20 日	神奈川県 大本山總持寺	檀信徒
第 12 回	11 月 28 日～30 日	福岡県福岡市 安国寺	師範・詠範
第 13 回	平成 31 年 2 月 7 日～8 日	京都府宇治市 興聖寺	師範・詠範

梅花流創立六十五周年
記念奉讃大会の経費について

本大会の経費については、企画運営費、記念品費、役員諸経費、清興費、事務費、会場費、保険費など約一億円の支出をいたしました。この経費は、曹洞宗梅花講規程に定めるところにより、宗費をもって支弁させていただきました。

なお、参加費は賛助会員を含め約七千五百万円をいただきました。

中古法具寄贈のお願い

伝道部詠道課では、中古の梅花法具等を収集し、自然災害で被災された講員、海外で梅花流を志す檀信徒、本山僧堂や専門僧堂などにお送りしています。

ご不要になりました法具がありましたら伝道部詠道課にお送り下さい。

※送料はご負担ください。

〒一〇五一八五四四

東京都港区芝二一五一一

伝道部詠道課「中古法具」係

ばいかん・ばいからんからのお願い

お仲間を
増やしましょう

梅花流のお仲間が一人でも増えてもらうために、みなさんのお寺や梅花講で行っている、新講員勧誘についてのユニークな取組み、成功事例などがありましたら、詠道課までお知らせください。